雪国の植物　ユキツバキ　40

古い枝の幼芽形成（休眠芽の発育）

石沢　進

ユキツバキは、新しく伸びた枝の頂部に冬芽（頂芽）を形成し、また、葉を４・５枚着ける枝では、最上葉の葉腋に冬芽を、さらに上から２枚目・３枚目の葉腋にも冬芽が着くこともある。しかし、４枚目や５枚目の葉腋には、小さな痕跡状の芽ができるが、大きく発達することは少なくて休眠芽（潜伏芽）となる。そして、頂部の葉が害虫などにより食害を受けるとその休眠芽が大きくなり、冬芽として機能する。その休眠芽は数年経過した枝でも機能を失うことはなく、発育することがある。ここでは、その事例について観察した結果を記録する。

○新潟市の自宅で栽培しているユキツバキ系の品種、「姫白雪」の休眠芽の発育

挿し木で増やした株で、背丈ほどに成長しているが、最近衰弱して枝葉の伸びが悪くなり、葉の大きさも本来の大きさにならずに小型になってきている。また、枝の上部の葉は開くものの下方の枝の伸びが悪く、葉の展開が少なくなり、全体として葉の数も少なくなってきて株に葉をつけていない枝が露出した状態になっている。葉が少なく露出した枝、多分伸長してから４年以上経過した枝に新たに冬芽を着けることがあり（写真１）、休眠芽由来と思われる。その芽の形成位置が、葉を着けていた痕跡の腋から発育しているからである。樹が全体が弱っているためか、その芽が展葉しても葉の数は、１－２枚と少ないことが多い（写真２）。休眠芽が枝に多数発育すれば、樹は元気よく回復するとみられるが、現在年の経過とともに衰え気味である。

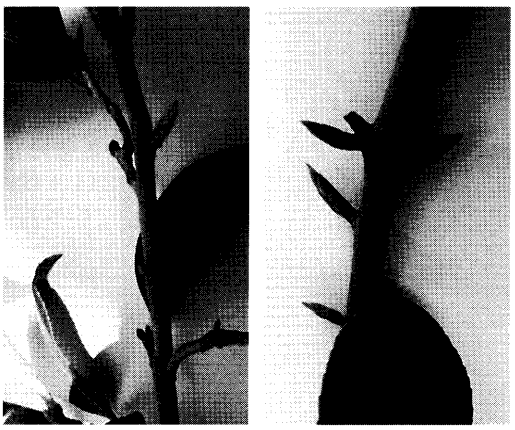


写真１　５年以上経過した幹に発育した冬芽
（幹に葉の少ない部分に冬芽の発育）

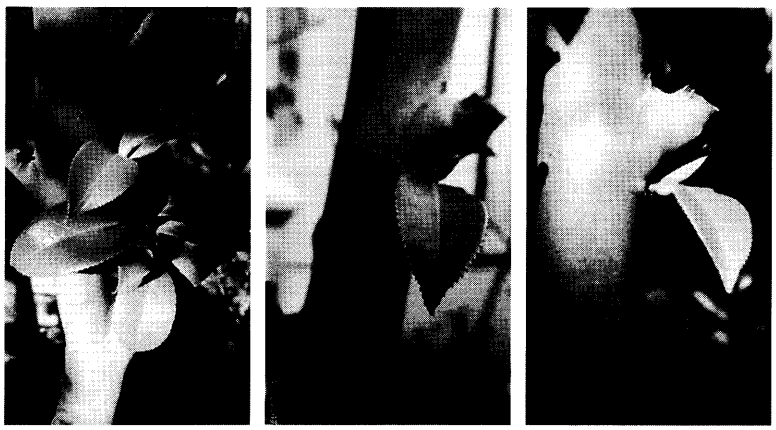


写真２－１　写真２－２　写真２－３

写真２　休眠芽から展葉したとみられる枝葉
（茎は短く、葉数は少ない）
２－１：葉数２枚の新梢
２－２：葉数１枚の新梢（前面から）
２－３：葉数１枚の新梢（側面から）

○野生の枝にみられる休眠芽の発育

自然状態のユキツバキでは、休眠芽が発育する場合は少ないようである。株の上部の枝葉が、虫などの食害で欠損したような場合は、多数発育することがある。毎年葉を着けている枝では休眠芽の発育はみられない。野生の株でも稀に休眠芽が発育していることがあり、その事例を紹介すると次のようである、枝が垂れ下がり気味に伸びて細長くて、その枝の先端だけに葉が着き、途中に枝葉がないような場合に休眠芽が発育している。

休眠芽が発育して冬芽を着けた枝を採集して、その芽の位置を調べてみたのが、次頁の表である。ツバキの枝は、過去の伸長した年をたどることができるので、何年前に伸長したか枝の経過年数ごとに調査が出来る。具体的には、枝の伸長経過年ごとに枝の長さ、葉の残存有無、休眠芽の発育の有無とその位置が観察可能である。

表　休眠芽が発育した枝の長さ、葉の有無、
　　および冬芽の位置

枝の伸長年（経過年数）	枝の長さ cm	葉の枚数	冬芽の位置とその個数	頂芽個数
例1（写真3）				
1	7	3		1
2	7	3		
3	9	0		
4	16	0	3	
5	10.5	0	2	
6	8	0		
例2（写真4）				
1	8	3		1＊
2	9.5	3		
3	6	2		
4	11	0	2	
5	7	0		
6	11	0	1	
例3				
1	4	2		1
2	4	4		
3	4	1		
4	5	0	1	
5	7	0	1	
6	8	0		
7	5	0		
例4				
1	3.3	3		1＊
2	3.5	2		
3	2	1		
4	3.7	0		
5	6	0		
6	3	0	1	
7	5	0	1	

＊花芽を伴う

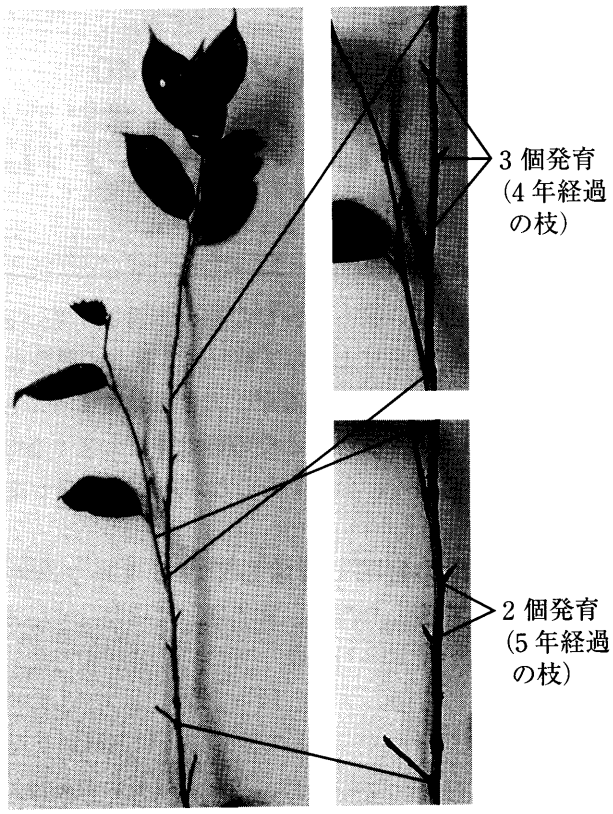


写真3　休眠芽由来の芽が枝に着く位置（事例1）

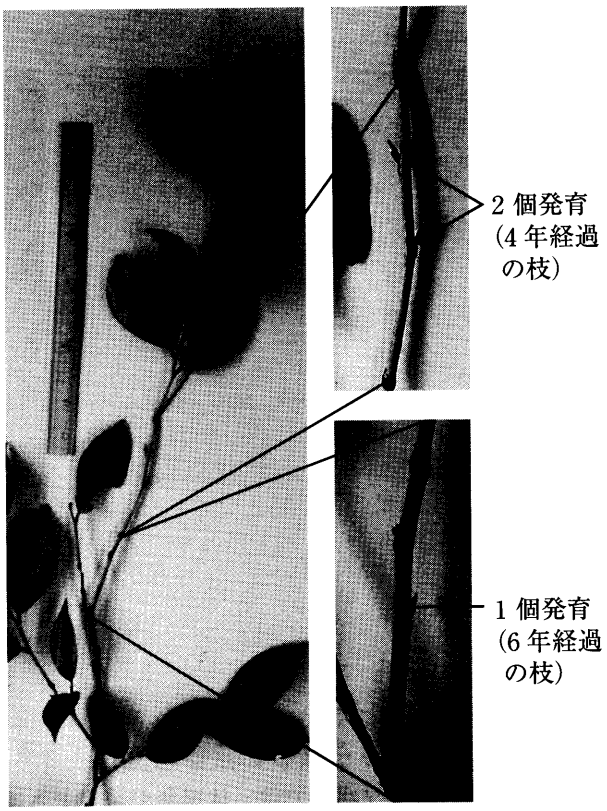


写真4　休眠芽由来の芽が枝に着く位置（事例2）

休眠芽が発育し、芽を着ける位置は、伸長してから4年以上経過し、葉が落ちた茎の部分で、その長さは各枝とも長く伸長したところである。過去に長く伸びた茎のところに休眠芽が発育する傾向ある。

○金花茶の休眠芽の発育

ツバキ属の中でも黄色の花を咲かせる金花茶は、新芽の形成や新梢の伸長に日本のツバキ属とは異なるようで、休眠芽由来とみられる芽は、春先に見られなかったのに春から秋にかけて新芽が発育し、秋11月には展葉する。特に2009年の冬に枝から葉がほとんど落ちて春先に裸の枝になり、枯死すると思われたのに、2010年にその枯れ枝状態のところに芽が形成され（写真5）、葉が開き生きかえった。新しく形成された芽は、その位置が日本のツバキ属とは異なるようである。かつて葉が着いていた位置ではあるが、その葉の腋には、一度芽が形成されて枝が伸長し、

枯れた形跡があるのに、新たに形成された芽はその基部近くに着いている。ユキツバキでは一度葉腋から枝が伸びた場合、その付近からの新芽の形成は見られない。金花茶では、葉腋付近に2個も新芽が展開している。この芽の由来は、明らかでないが一定の位置からの発芽であり、「古い枝の苞葉の腋生である」とも推定されるが、なお詳細な観察が必要であろう。

写真5－1

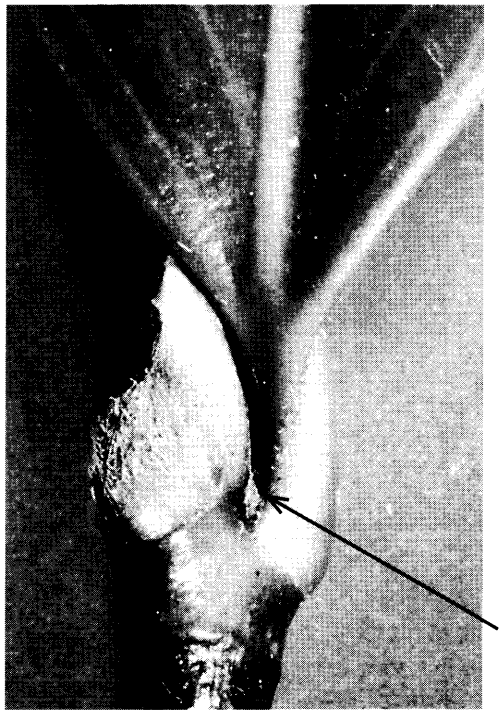
写真5－2

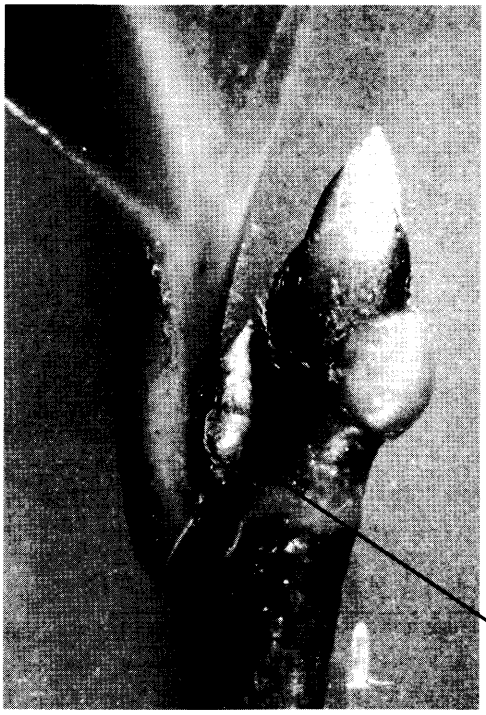
写真5－3

写真5－4

写真5　金花茶の休眠芽の発育と展葉
5－1・2　葉腋付近で1個の芽の形成と展葉　　5－3・4　葉腋付近で3個の芽の形成と展葉

葉腋に形成される休眠芽と幼芽（冬芽）の区別





葉が展開して7月上旬に成葉になり、枝の先端は頂芽を形成することが多い。そして枝の最上葉の腋に元気のよい枝では幼芽（冬芽）を作ることがあり、栄養不足の枝では、その腋に小さな痕跡状の芽を作るが発育しないでそのまま休眠して休眠芽となる。その状況を写真で示すと上のようである。

葉腋の芽は、発育しないで休眠芽となる場合（写真左）発育して幼芽（冬芽）となる場合（写真右）とがある。